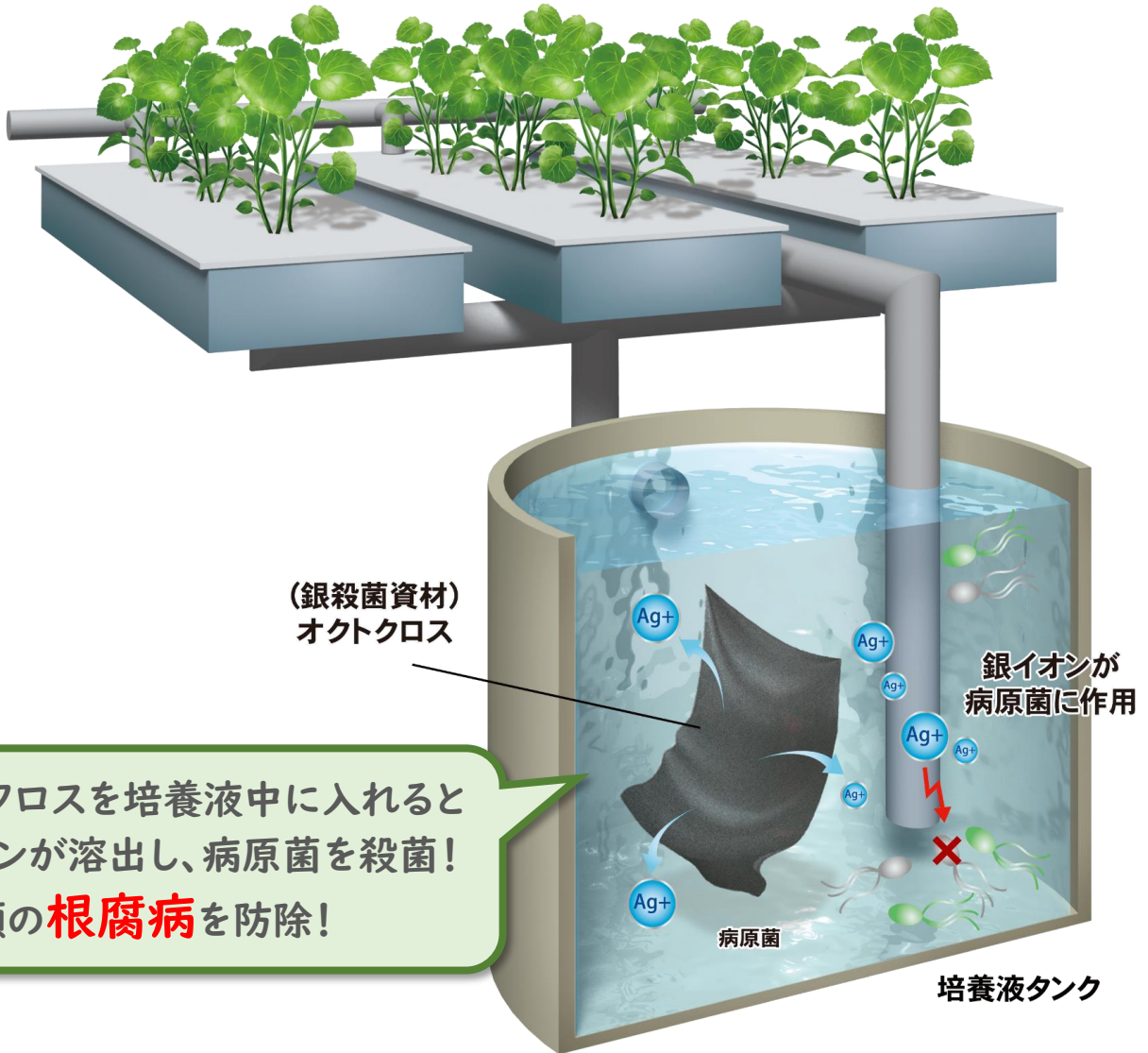




オクトクロス®

オクトクロス(OCTCLOTH)は三島光産株式会社の登録商標です。



オクトクロスを培養液中に入れると
銀イオンが溶出し、病原菌を殺菌！
野菜類の**根腐病**を防除！

殺菌剤
オクトクロス
[金属銀剤]

登録番号
物理的・化学的性状
有効成分
その他の成分
最終有効年限

農林水産省登録 第20950号
黒色シート
銀 700mg/1枚(30cm×100cm)
ナイロン不織布
製造日より3年 (未開封、冷暗所保管)

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	金属銀を含む農薬の総使用回数
野菜類 (水耕栽培)	根腐病	水耕栽培液1ton当たり 30×100cm 1枚	定植時～ 収穫時	—	水耕栽培 養液槽に浸漬	—

オクトクロスの使用に関するQ&A

01 オクトクロスとは、どのようなものですか？

銀を担持させた(銀を付着させた)布で、水耕栽培の培養液中加入すると銀イオンが溶出し、培養液中の病原菌を殺菌します。野菜類の水耕栽培で発生する根腐病を予防する効果があり、本適用条件において農業登録されている国内唯一の防除剤です。[2023年4月1日現在]

02 オクトクロスは、いつ・どれくらいの量を投入すればよいですか？

定植後にオクトクロスを投入してください。オクトクロスの投入量は、培養液1ton(1m³)に対して1枚となります。ただし、根量に対して銀イオン濃度が高くなると、茎葉の萎れや根の変色などの葉害が生じる恐れがあるため、根量が少ない状況で使用される際は1/4～半量程度の投入量から始め、生育状況をこまめに確認しながら量を増やすようにしてください。

※ 1枚: 30cm×100cm

03 オクトクロスは、どこに投入したらよいですか？

直射日光の当たらない培養液タンク内で、常に培養液が動いている場所に配置することが望ましいです。オクトクロスがポンプ配管に吸い込まれないよう、紐で縛るなどしてください。培養液タンクが無く、ベッドに直接投入する際は、オクトクロスに根が絡みつく可能性があるため、根が直接触れないよう、根(野菜)から離れたところにオクトクロスを紐で縛るなどして固定してください。

04 オクトクロスを過剰に投入すると、どのようなことが起こりますか？

オクトクロスを過剰に投入しますと、培養液中の銀イオン濃度が高くなり、茎葉の萎れや根の変色などの葉害が生じる恐れがあります。オクトクロスの投入量は1枚/tonが規定となりますが、葉害の症状が現れた際は、直ちにオクトクロスを取り出してください。オクトクロスを取り出しても葉害の症状が回復しない場合は、培養液を希釈、または交換してください。また、オクトクロスに根が直接接触することでも葉害が生じる可能性がありますのでご注意ください。

05 オクトクロスは、定植前の苗床栽培(水耕)のときに使用してもよいですか？

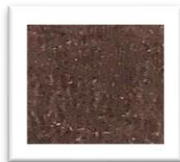
苗床栽培(水耕)のように、子葉～本葉1枚程度のときは根量が少ないため、原則としてオクトクロスは使用しません。もし、苗床栽培でも使用される場合には投入量を少なくし、生育状況をこまめに確認してください。

06 オクトクロスは、どのくらいの期間使用すると効果がなくなりますか？ (効果の有無をどのように判断すればよいですか？)

目安としては、『果菜類:6ヵ月～1年程度』『葉菜類:2ヵ月～3ヵ月程度』になります。目安の期間内であっても、オクトクロスが下の写真のように薄茶色に変色している状態では、十分な効果が得られない可能性があります。特に連続栽培をする際は、時期を見て交換するようにしてください。



防除効果あり(新品)



防除効果低下

07 既にオクトクロスを投入しているベッドに、新たに苗を定植する際はどのようにすべきですか？
(連続栽培する際は、どのようにすべきですか？)

オクトクロスを入れたままの状態ですべて定植することができます。ただし、定植直後は根量が少ないため、葉害の症状が現れた際は、オクトクロスを半量ほど取出してください。その後、生育状況をこまめに確認しながらオクトクロスの量を増やすようにしてください。

08 オクトクロスを使用するにあたって、培養液のpHはいくつがよいですか？

オクトクロスを使用する際の培養液のpHは、5.0～8.0を想定しています。アルカリ性が強く(pHが8.0以上)になると、銀イオンの溶出量が少なくなるため、オクトクロスの効果が十分に得られない可能性があります。また、酸性が強く(pH5.0以下)になると、銀イオンの溶出量が多くなり、葉害が生じる可能性があります。

09 オクトクロスからの銀の溶出量は、培養液の温度によって変わりますか？

オクトクロスを使用する際の培養液の温度は、20℃付近を想定しています。培養液の温度が高くなるにつれて銀イオンの溶出量が多くなるため、液温が高くなる夏場は、オクトクロスの投入量を少なめにするなどの調整が必要になることがあります。

10 オクトクロスには、病害が発生した作物(野菜)を治療する効果がありますか？

オクトクロスには病害を予防する効果がありますが、病原菌に感染した作物(野菜)を治療する効果はありません。例えば、根腐病は気温が高い時期に発生すると、作物に感染、増殖して、大量の伝染器官を培養液中に放出します。伝染器官は遊走子といって、培養液中を遊泳して根に感染して広がっていきます。培養液中にオクトクロスがあると、銀イオンによって遊走子が死滅し、健全な植物への感染を抑制します。病害が発生し、作物が次々と萎れている状態では、既に培養液中に大量の遊走子が存在している可能性があり、この時点でオクトクロスを入れても効果は得られません。

11 すでに栽培を開始していますが、栽培途中からオクトクロスを使用しても効果はありますか？

病害が発生していなければ、途中から使用しても予防効果はあります。オクトクロスは、発病する前から培養液に投入することで病原菌を殺菌し、病害の発生を防ぎます。なお、オクトクロスから銀イオンが溶出するまで最低でも1日程度の時間が必要となるため、オクトクロスを投入してもすぐには効果は得られません。

12 オクトクロスは安全ですか？

オクトクロスの農業登録時に、キュウリを使った可食部への銀の残留分析試験をしています。オクトクロスの使用・未使用に関わらず、可食部への銀の残留量にほとんど差がありません。なお、銀はウイルスや細菌類に対して優れた殺菌力を示す一方、食品添加物として使用されるなど、人や動物にとっては安全性が高い物質とされていますので、安心してご使用ください。

13 オクトクロスは、培養液中に発生する藻を抑制する効果がありますか？

農業登録適用外の案件ですが、使用される環境によっては、藻の発生を抑制する効果はあります。直射日光が当たり、藻が繁殖しやすい培養液温度などの環境条件がそろっている場合は、藻の増殖速度が速く、効果を確認できない可能性があります。

14 オクトクロスを保管する際の注意点はありますか？

光が当たらないように保管して下さい。また、高温多湿の場所での保管は避けてください。

15 オクトクロスをおゾン殺菌装置と併用してもよいですか？

おゾン殺菌装置と併用は避けてください。オクトクロスの効果が十分に得られない可能性があります。

16 オクトクロスと液肥が反応する可能性はありますか？

通常の水耕栽培で使われる濃度まで希釈した液肥と反応して、オクトクロスの効果が得られなくなることはありません。

17 オクトクロスに浸漬した溶液を葉や実に散布しても効果がありますか？

オクトクロスに水をつけて銀イオンを溶出させた液を葉や実に散布しても影響はありませんが、このような使い方は農薬取締法では認められておりませんので、散布しないようにしてください。

18 水耕栽培設備を消毒する際に気をつけることはありますか？

塩素系薬剤(次亜塩素酸ソーダ、過酸化水素など)を用いてベッドや培養液タンクなどの設備を消毒した後は、入念に洗い流すようにしてください。設備内に残留した塩素と反応して塩化銀が形成され、オクトクロスの効果が十分に得られない可能性があります。

使用上の注意事項

- ① 表紙にある適応範囲以外の目的でオクトクロスを使用しないでください。
- ② 銀イオン濃度が高くなると、茎葉の萎れや根の変色などの薬害が生じる恐れがあるため、オクトクロスの投入量を減らすなど、調整が必要となることがあります。
【銀イオン濃度が高くなる要因】
 - ▶ 生育初期などの根量が少ないとき
 - ▶ 夏場などの培養液温度が高いとき
 - ▶ 培養液pHが低いとき
- ③ 薬害の症状が現れた際は、直ちにオクトクロスを取り出してください。
オクトクロスを取り出しても薬害の症状が回復しない場合は、培養液を希釈、または交換してください。
- ④ オクトクロスの投入は、直射日光の当たらない培養液タンク内で、常に培養液が動いている場所が望ましいです。
- ⑤ オクトクロスと塩素系薬剤との併用はしないでください。
塩素系薬剤を用いてベッドや培養液タンクなどの設備を消毒した後に使用する際は、入念に洗い流してください。
- ⑥ オクトクロス取扱い後は、手指を十分に洗ってください。

- 商品についてのお問い合わせは、お買い求めの販売店、または、下記の三島光産(株)の窓口までお願いいたします。

三島光産株式会社 機工事業本部

電話番号：093-471-7091

FAX番号：093-471-7149

(受付時間:9時~12時 13時~17時/但し、土日・祝日・年末年始は除く)



オクトクロスHP

 三島光産株式会社

機工事業本部

〒800-0211 福岡県北九州市小倉南区新曾根5番1号